2026年11月17日　合同会社旅と絵

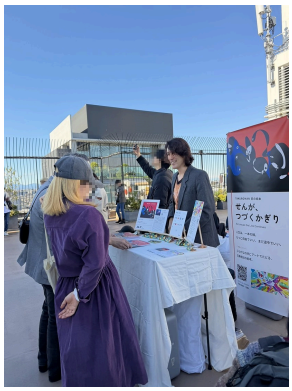
TAKUROMAN、自ら出版社となり
初の絵本『せんが、つづくかぎり』を刊行。
AIを出版実務に活用。
販売用初刷り100部の絵本が、全国の書店から注文可能に

「売る力がなければ、自由にはなれない」。
35歳から絵を学んだ著者が、本をつくり、届けるまでを自ら担う

合同会社旅と絵（名古屋市）は、35歳で漫画学校に入学し、絵を学び始めたアーティストTAKUROMANの初の絵本『せんが、つづくかぎり』を11月7日に発売し、全国の書店から注文できるようにしました。旅と絵は、TAKUROMANが自身のマネジメントを行う会社で、本書が初めての刊行物です。著者が出版社の役割も担い、取次との契約、書店への営業、会場での手売りまで自分で行い、注文書やチラシなどの出版実務にはAIを使っています。発売5日後には、著者が営業していない北海道の書店から、お客様の取り寄せ注文が届きました。販売用の初刷りは100部で、現在、増刷を検討しています。

本書は、人生を一本の線にたとえ、もっと自由でいい、まだ途中でいいと伝える、日英併記の大人向け絵本です。







左：書影（帯付きの表紙、210×210mm、ソフトカバー）　中・右：ZINEフェス吉祥寺のブース（2026年11月7日、吉祥寺PARCO屋上）

著者が自分で行っていること

- 流通：取次の株式会社地方・小出版流通センターと契約し、全国の書店から注文できるようにしました。
- 書店からの注文：発売5日後の11月12日、著者が営業していない北海道の書店から、お客様の取り寄せ注文が届きました。翌13日には、学校や図書館などに本を納める横浜の書店からも注文が入りました。
- 手売り：発売日の11月7日（土）に「ZINEフェス吉祥寺」に出展しました。2027年1月11日（月・祝）は「ZINEフェス名古屋」に出展します。
- 書店への営業：著者が自分で書店に連絡しています。営業用に、非売品の見本誌を300部制作しています（11月中に完成予定）。ご希望の書店様に無料でお送りします。
- AIの活用：注文書の作成、営業先のリスト作り、チラシ、名刺、各種イベントへの申し込み補助などの出版実務に使っています。

ご注文方法や購入特典のくわしい内容は、特設ページをご覧ください。
https://takuroman.com/books/sengatsuzukukagiri

著者が語る「ひとり出版社の実践」

1. 表現は、誰かの評価を待たなくていい

「本を出す道は、ひとつではありません。出版社から出してもらう道もあります。その場合、出版社が持つ強い支援を受けられます。一方、この絵本は、自分で出して、書店に営業する道を選びました。それならば、よりダイレクトだと思ったからです。」

2. 世に出すことで、早期にフィードバックを得る

「現実は楽ではありません。自ら手売りをし、書店に営業し、販促策も実施しています。それでも、まず世に出し、そこから試行錯誤する。このやり方は、自分に合っています。」

営業していない北海道の書店から届いた取り寄せ注文も、世に出したから起きたことでした。

3. ひとり出版社なら、読者と直接つながれる

「著者としての活動と、出版社としての活動は、領域が異なります。両方を担うのは、簡単ではありません。ただ、売る力がなければ、自由にはなれません。やってみると、自由度が高いのです。出版社としての顧客と、著者としての顧客を、同じにできます。だから、LINEの活用やコミュニティ作りがやりやすいことにも気づきました。」

4. さらに、「進化する本」を目指す

「そして思い至ったのが、『進化する本』です。買って終わりではなく、コンテンツが拡充していくような本です。本が売れ続けること。コンテンツが広がり続けること。その両方を目指しています。」

本に挟むカードからLINE公式アカウントにつながり、著者からのメッセージ動画や、時代の変化に応じた新たな気づきを届けていく構想です。動画は現在、準備中です。著者が出版社でもあるため、足す内容や届け方を自分で決め、小さく試していけます。

5. AI活用が、それを可能にする

「実現できた理由の半分は時代背景です。オンデマンド印刷で小部数から刷れるようになり、本書も販売用は100部から始めました。補助金もあります。そして、AIです。今までは、面倒だなと思ってできなかったこと、つまり些細なことが大きな壁でした。その制約を、AIがとっぱらいました。」

「たとえば、書店向けの注文書です。大事なものですが、内容が複雑で、モレがあると困ります。営業先のリスト作りでは、全国の書店を調べるのに使いました。注文書は何度も確認して手直しをし、リストも、住所が合っているか、実在するかは自分で確認しました。なので、それなりに手間はかかっています。それでも、従来なら、どちらもひとりでやるには、もっと多大な時間と労力を使う作業でした。」

「ひとりではできなかったことが、できるようになりました。AIの発展で、だれもができる可能性はある。そう感じています。眠っていたクリエイターたちが、目覚める頃です。」

6. 回り道も、生きた

「絵本の『ばらばらに みえても ほんとうは ずっと いっぽん』という文章と重なるところですが、各分野で培った力が生きています。回り道をしたことが、よかったのです。それも、本の主旨と合っています。」

合同会社旅と絵にとって、本書の刊行は、こうした実践も含めた、出版社としての船出です。

「この試みは、挑戦の形を見せる、アーティストとしての表現でもあります。著者兼出版社という形を、ひとつのモデルとして発展させていきたいです。」

本書について

35歳で漫画学校に入学し、絵を学び始めた著者の、初めての絵本です。白い紙の前で固まって、何も描けなかったところから始まっています。

絵の描き方と人の生き方を一本の線にたとえた、大人向けの日英併記の絵本です。ふるえたり、ゆがんだり、ばらばらに見えたりしながら続いていく線を、ひらがなの短い詩とTAKUROMANのアート作品でたどります。

絵は、数年間のアーティスト活動のなかで、個展などで発表してきた、著者がみずから描いた作品です。
描き下ろしもあります。





中面の見開き

書誌情報

書名	せんが、つづくかぎり	**英題**	As Long as the Line Continues
著者・作画	TAKUROMAN	**発行**	合同会社旅と絵
発売日	2026年11月7日（土）	**定価**	2,750円（税込）（本体2,500円）
ISBN	978-4-9914791-0-6	**Cコード**	C0071
仕様	210×210mm、ソフトカバー、48ページ、日英併記		
販売	全国の書店で取り寄せ可能（地方・小出版流通センター扱い）、ネット書店、TAKUROMAN SHOP、BOOTH、メルカリShops		

著者プロフィール

TAKUROMAN（タクロマン）

アーティスト。子どもの頃からの夢を忘れられず、35歳のとき一念発起して漫画学校に入学。同時期、書籍『人体クロッキー』の著者である高桑真恵氏から描画技術を直接学ぶ。数年間にわたり作品制作を続けるなかで、偶然に生まれる線や形から内面を引き出す独自の制作手法「Self-Drawing Feedback Concept Method」に辿り着く。2010年代より、日常の中で描いた作品を継続的に発表。2021年よりアーティストとして本格的に活動を開始し、個展の開催、ライブペイント、社会人向けの講演、二胡の路上ライブなどを行う。2024年10月、Web3やメタバースの専門メディアMetaStepで『35歳からクリエイターの夢を実現！TAKUROMANから学ぶセルフマーケティング術』の連載を開始。

ホームページ：https://takuroman.com　Instagram：https://instagram.com/takuroman　X：https://x.com/TryingUnity

本件に関するお問い合わせ

- 合同会社旅と絵　出版担当（〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4-24-5 第2森ビル401）
- メール：info@tabitoe.co.jp
- 著者への取材のご依頼も承ります
- 特設ページ：https://takuroman.com/books/sengatsuzukukagiri
- 書店様向けのご案内（お取引条件・ご注文書）：https://takuroman.com/books/sengatsuzukukagiri#bookstores